

## 電業特報編集部・プチ特集 2019.09-PART2

# 震災復興小学校および震災復興小公園を歩く 《防災月間》に改めて考えたい防災都市の形

## ～震災復興小学校・小公園の現況と活かされ方②～

(取材・構成／本紙編集部)

写真1 / 中央区立泰明小学校（震災復興小学校）に隣接する数寄屋橋公園も震災復興小公園の一つ



### ☆まずは前回のおさらいから

前回（先週号）の本欄では、関東大震災（1923年＝大正12年9月1日）の被害を最も受けたエリアの一つとして知られる台東区（旧下谷区・浅草区）に今も残る、震災復興小学校ならびに震災復興小公園のうちのいくつかを訪ね、現況をレポートした。

今回はその続きをお届けしたい。だがその前に、震

災復興小学校と震災復興小公園について簡単におさらいをしておきたい。

関東大震災は文字通り甚大な被害を首都圏各地にもたらしたわけだが、東京ではたとえば市立小学校（旧東京市）全195校のうち2校を除いて、全・半壊または焼失した（町立・村立小学校は除く）。

そこで東京市は、時の内務大臣・後藤新平が総裁を

◇写真 2&3 / 西町公園と西町小学校跡に建設された永寿総合病院。下は西町公園入口のポップ彫刻。台座の後ろに昭和 4 年竣工とある



兼ねていた帝都復興院の支援を仰ぎ、不燃化構造（鉄筋コンクリート造）の震災復興小学校を建設する計画を立案。計 177 の市立小学校を震災復興小学校として建て直した。

この 177 校のうち、さらに 52 校に関しては、校庭兼コミュニティ空間、さらには避難所の性格も併せもつ震災復興小公園とのセットで建設された。

そして被害の大きかった現台東区エリアには、震災復興小学校全 177 校のうち 35 校が集中、さらに 52 の震災復興小学校&震災復興小公園のセットのうち 30 か所が、台東区・墨田区・江東区に集中することとなった。人口密集地帯だった下町地区の被害がいかに大きかったかが、この震災復興小学校や震災復興小公園の多さだけでも如実にわかる。

しかし、戦後の開発や少子化による統廃合などにより、震災復興小学校も震災復興小公園も次々に姿を消していった。

35 校もの震災復興小学校が建設された台東区にお



いても、当時のまま現存する小学校はわずか 6 校しかない。当時のテイストを残しながら改築された小学校はあるが、それも数校しかない。

震災復興小公園は小学校に比べると、形を変えながらも防災上の観点などから残されている事例は比較的多いが、開発によって消えた事例も少なくない。

今回はこれらの震災復興小学校および震災復興小公

\* 本文、後略